

小田原ならではの
文化によるまちづくり基本計画



令和５年度
評価結果

令和６年１２月

小田原市

基本計画の概要

小田原市では、令和2年4月に文化芸術基本法の趣旨及び令和3年9月の小田原市民ホールの開館を踏まえ、市民一人一人が心豊かに希望をもって暮らしていくまちの実現及び文化による活力と魅力あふれるまちの実現のため、小田原市文化によるまちづくり条例を制定しました。

本計画はこの条例に基づき、本市の文化振興施策と文化によるまちづくりに関し、基本方針及び推進を図るための事項を定め、施策の総合的かつ計画的な推進のため策定したものです。

実績評価の方法

1 評価の方法

基本計画では、計画の期間を令和12（2030）年度までとし、施策ごとに目指す姿（2030年度）を設定しています。計画の進行管理として、目指す姿（2030年度）に対し、令和5年度どの程度達成しているかを精査し、実績評価を行っています。

2 評価の基準

以下に示す基準により、実績を評価しました。

評価区分	基準
順調	目指す姿に向け、着実に成果が上がっているもの。
やや順調	今後も継続して取り組むことにより、目指す姿の達成が可能であると見込まれるもの。
取組中	目指す姿の達成に向け、より一層取り組みが必要なもの。
停滞	目指す姿の達成が困難なもの。
未実施	施策に向けた取り組みを実施しなかったもの。

評価結果総括

新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行に伴い、社会活動も落ち着きを取り戻し、国内・国外ともに、様々なイベントが以前のように通常開催され始めました。イベント数はもちろん、海外からの観光客も増え、小田原市への観光客数等は前年に比べ増加となりました。三の丸ホールの運営も順調に行われ、各事業とも維持・増加傾向となりました。

施策の進捗状況は、全14施策のうち「順調6」「やや順調7」「取組中1」となり、「順調」「やや順調」を合わせると全体の92%、「順調」は64%でした。現在実施している事業の継続した取り組みと内容の充実、新たな事業の安定した運営と気を捉えた情報発信を進めるとともに、さらに基本計画の目指す姿の実現に向け、新たな取り組みを検討していく必要があります。

今後の課題

様々な文化活動が活発に実施され、多くのイベントや事業の実施により、イベント参加者や観光客数は増加傾向にあります。この機をとらえ、市内の歴史的建造物をはじめとした歴史的・文化的資源にもより光をあて、さらに来訪者を取り込んでいくことが望まれます。幅広い情報発信ツールの確保と安定的で効果的な情報の提供、さらに連携の強化などを進めていくことが重要であると考えます。

また、事業を実施する文化団体同士の情報共有を兼ねた交流、新たな文化活動の担い手育成にも、努めていく必要があります。さらに、小田原の新たな文化の把握と創造、恒常的に文化を創造していく風土の醸成と文化振興を図るため、日常生活に、より身近な場所で文化・芸術に触れるための施策を検討する必要があります。

			2030目指す姿	参考指標（定量的）	目標の方向	R4	R5	R6目標値	2030目標値	R5年度の数値について	R5年度勘案すべき内容	R5評価	R5文化政策課の所見
基本目標 1	施策1	文化を守り、伝える	小田原ならではの歴史や文化・伝統を、市民が広く認知・理解し、愛着を持って大切にするとともに、市民の多くが、その保存や継承に携わり、取り組んでいる。	文化財公開等事業の来訪者数	増	7,571人/年	6,659人/年	6,200人/年	総合計画		文化財建造物　秋の観覧会 12月2日(土)・3日(日)実施 参加者数：2,592人	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○市の観光客数が過去最高を更新し、主たる観光地である小田原城は順調に入場者数を伸ばした。 ○文化財公開事業等への来場者も、昨年と施設の入れ替わりがあるが、安定して一定の集客を集めている。 ○今後も継続的に取組を実施していく。
				小田原城天守閣入場者数	増	524,201人/年	589,485人/年	585,000人/年	総合計画・重点施策		(岩瀬家住宅・旧松本剛吉別邸・静山荘・小田原文学館・皆春荘・老樗荘/葉雨庵/無住庵・古稀庵庭園(3日のみ公開)・三淵邸甘柑荘)		
	施策2	文化資源の保存と活用	歴史的建造物等の利活用が充実し、多くの人が建造物を利用し、訪れ、広く親しまれている。	文化部の管理する歴史的建造物での、イベント等実施回数（日数）	増	503回/年	707回/年	96回/年	192回/年	旧松本剛吉別邸　136回 ・みんなでYOGA!、WINTER WONDER MARKET 皆春荘　151回 ・春さくら華屋敷まつり、俳句の会、美の室礼展 松永記念館　314回(特別展含む) ・中河与一コレクション ・近代数寄者の書―鈍翁・幻庵・耳庵・夜雨― 文学館　106回(特別展含む) ・劇作家・北條秀司一華やかな交流の軌跡 ・貴重資料特別公開 北原白秋の震災体験手記『胡麻の実』ほか 尾崎一雄　絶筆草稿『春寒』ほか	○旧松本剛吉別邸・皆春荘の管理運営 受託業者：株式会社トーブラ （剛吉）31イベント実施、まち歩き8ツアー誘致 （皆春）26イベント実施、まち歩き5ツアー誘致 【イベント参加人数】 旧松本剛吉別邸　3,812人 皆春荘　2,349人 松永記念館　16,272人 文学館　2,907人	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○昨年度から委託事業を開始した旧松本剛吉別邸・皆春荘をはじめ、各歴史的建造物でのイベント等の開催は順調に実施され、実施回数・参加人数も増となっている。 ○今後も、各建造物が市民に広く親しまれるよう、施設運営に努める。
				歴史的建造物の入場者数	増	70,343人/年	84,031人/年	93,000人/年	総合計画	松永記念館　17,326人 清閑亭　休館中 文学館　5,649人 なりわい交流館　43,321人 旧松本剛吉別邸　10,321人 皆春荘　7,414人	R6.3.25民間貸付により小田原別邸料理清閑亭が開業		
	施策1	文化・芸術拠点である小田原三の丸ホールの活用	市の文化・芸術活動を推進する拠点としての機能が確立され、全市民が一度はホールを訪れて多様な文化・芸術に触れており、さらに多くの人が集い交流が図られている。	市民ホールの入館者数	高止まり維持	324,000人/年	324,000人/年	500,000人/年	500,000人/年 総合計画・重点施策		三の丸ホール鑑賞事業【R6.1.18(木)】 市内小学校25校の4年生を対象に、「小田原オペラ」による公演を実施。	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○入館者数・事業実施回数等からみて、三の丸ホール運営は順調である。 ○市内全小学校の4年生を対象とする鑑賞事業の実施により、「全市民が一度はホールを訪れて多様な文化・芸術に触れる」という目標に一步近づいたと考えている。
				市民ホールでの事業実施回数（日数）	維持	999回/年	1,088回/年	1,000回/年	1,000回/年	(R5.4～R6.3) 大ホール　233回 小ホール　257回 スタジオ　190回 展示室　244回 ギャラリー回廊　164回	【稼働率】（R5.4～R6.3） 大ホール　81.6％ 小ホール　78.3％ スタジオ　45.9％ 展示室　93.0％ ギャラリー回廊1階　47.2％ ギャラリー回廊1階　42.4％		

			2030目指す姿	参考指標（定量的）	目標の方向	R4	R5	R6目標値	2030目標値	R5年度の数値について	R5年度勘案すべき内容	R5評価	R5文化政策課の所見
基本目標 2	施策2	文化活動への支援	市民自らが文化活動を行うための相談・情報提供等の支援体制が整い、発表などの機会の充実が図られている。	ホールのSNSフォロワー数	維持	総数 2,979件	総数 3,634件	3,000件	3,000件	(R6.8月末時点) X(旧Twitter)フォロワー数 1,665 インスタフォロワー数 1,557 Facebookフォロワー数 412	(R6.8月末時点) X(旧Twitter)ツイート数 3,417 インスタ投稿数 519 YouTubeアップ数 26 ・メルマガの配信、文化レポーターによるいろいろ小田原の作成・配架 ・名義後援対象事業について、市内公共施設等でのポスター掲示・チラシの配架	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ HPの閲覧数は減となったものの、複数のSNSによる情報発信と、受け取る側（フォロワー数）の増により、情報発信は安定して図られていると考える。 ○ 引き続き、継続的な情報提供に努める。
				市民ホールHPのアクセス数	維持	183,572回/年	174,632回/年	90,000回/年	90,000回/年	2023.9.1～2024.8.31のアクセス数	・市の自主事業企画の実施 ・ホール館内では、ポスター等の掲示や催し物案内（チラシ）の配架等。		
	施策3	文化・芸術に触れる身近な機会の充実	日常生活により身近な場所において、文化・芸術に触れる機会が創出され、市民の文化活動の充実が図られている。	市の文化事業（展示会等）が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	13回/年	1回/年	15回/年	15回/年	カラーテーブルアート (ハルネ小田原・11/25実施) 12グループ 40人参加	・文化レポーターオープンピアノ R5.11.3(祝) 三の丸ホールスタジオ ・R6.2.1 ホテル椿山荘東京（藤田観光(株)）との包括連携協定を締結	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ アウトリーチ以外の、地域での事業がやや不足していた。 ○ 身近な地域での文化事業の実施について、対策を検討する。
				市の文化事業（公演）が、身近な場所で開催された回数(日数)	維持	39回/年	29回/年	55回/年	55回/年	アウトリーチ実施校数 21校29回			
基本目標 3	施策1	文化を支える地域と人材の育成	地域の伝統行事等を通じて世代間の交流が図られるとともに、人材育成のためのプログラム等が確立し、充実している。	アウトリーチ事業参加児童生徒の満足度（5点満点）	増	4.7点	4.8点	4.3点	4.8点	アウトリーチアンケートより（5点満点）	アウトリーチ実施校数 21校 29回 アウトリーチ実施団体数 11組	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 民俗芸能保存協会による後継者育成発表会は、50周年記念大会ということもあり、観覧者数を大きく増やした。 ○ 今後も継続的に取組を実施していく。
				小田原民俗芸能保存協会後継者育成発表会観覧者数	維持	454人	806人	500人	500人	創立50周年記念民俗芸能大会 三の丸ホール大ホールで開催	R5 団体数に変更なし 8団体 市外団体招待1団体（川崎沖縄芸能研究会）		
	施策2	文化の多彩な情報発信	多彩なツールを活用した情報発信が整い、市内に限らず広く誰でも簡単に情報を得られる。	SNS等を利用した文化情報発信の件数	増	76件/年	69件/年	36件/年	108件/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 52件 文化レポーターFacebook 発信件数 17件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,624人（R6.8末現在） 神奈川イベントカレンダー(マグカル) 年4回発行 インスタフォロワー数 剛吉141人 皆春荘126人 Facebookフォロワー数 剛吉20人 皆春荘23人	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ メルマガ及び文化レポーターによる情報発信は、安定して行われている。 ○ 情報紙「いろいろ小田原」は、市内各施設等にも置かれ、SNSで情報を得られない人々に情報を共有する重要なツールとなっている。 ○ 引き続き、継続的な情報発信に努める。
				情報誌等の発刊回数	増	2回/年	3回/年	4回/年	8回/年	文化レポーター通信 「いろいろ小田原」（オススメ小田原情報） 2号～4号			
	施策3	交流の促進	姉妹都市等と、歴史・文化の点においても広く交流が図られている。	国内姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	5回/年	7回/年	2回/年	2回/年	・北條五代祭り ・寄居北條まつり ・八王子まつり ・八王子いちょう祭り ・日光東照宮秋季例大祭 ・姉妹都市御城印の販売（小田原城・八王子城・鉢型城） ・「下中たまねぎ」の収穫体験・学校メニュー提供	・日光市、冬季観光誘客促進事業PRに協力	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 国内交流については、イベント等がほぼコロナ前の状況に回復し、以前のように交流が行われた。また、祭事のみならず、多種多様な形で交流が実施された。 ○ 海外交流については、高校同士の交流が実施され、一部回復の兆しもあるが、今後も状況に合わせて柔軟に実施していく。
				海外姉妹都市・友好都市との文化交流事業実施回数	維持	2回/年	1回/年	2回/年	2回/年	・チュラピスタ高校と小田原高校の交流開始（9月～）			

			2030目指す姿	参考指標（定量的）	目標の方向	R4	R5	R6目標値	2030目標値	R5年度の数値について	R5年度勘案すべき内容	R5評価	R5文化政策課の所見										
基本目標4	施策4	他分野や人材・団体等との連携	地域や幅広い分野の人・団体と多岐にわたって連携し、文化に触れる機会が提供され、協働して文化活動が行われている。	文化に関する名義後援の件数	増	67件/年	75件/年	50件/年	75件/年			順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 団体の活動等が活発に行われ、名義後援の対象となるイベント等が増えている。 ○ 継続して活動が実施できるよう、市としても支援等の取組を進めていく。										
				市民学校修了生の担い手実践活動人数	増	143人	189人	90人	総合計画														
	施策5	産業・観光との連携による魅力の創出	産業・観光団体等と歴史的・文化的資源を活用したイベントや催しが行われ、文化観光が促進されている。	市の文化資源と産業・観光団体が連携して実施したイベント件数	維持	21件/年	21件/年	22回/年	48回/年	小田原観光協会(小田原市が出資)の実施事業のうち、歴史的建造物等の文化資源を活用して行われたイベント等 ・北條五代祭り ・小田原ちょうちんまつり ・一夜城祭り	カラーテープアート (ハルネ小田原・11/25実施) 12グループ 40人参加	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 観光イベントの多くが、通常の開催となった。観光協会による事業が市の文化資源を上手く活用し、外国人観光客を取り込むことに成功している。 ○ 引き続き広報協力など、団体等の支援を行っていく。										
				一人当たり観光消費額	増	3,679円	4,223円	3,832円	総合計画	入込観光客数 8,325,948人 観光消費総額 約351億円													
	施策1	文化を創造する風土を高める	市民自らが文化活動に参加して相互に交流し、文化活動の振興が図られ、文化活動への取り組み体制や支援が確立している。	小田原を文化的なまちだと思ふ市民の割合	増				約8割	約9割	※R2.11.30～R3.1.4実施した文化に関するアンケート (広報委員を通じたアンケート) ・小田原を文化的なまちだと思ふ→約7割 ・小田原は文化活動をしやすいまちだと思ふ→約3割	おだわらカルチャーアワード2023の開催 ○応募総数 40件 アクション奨励部門受賞6件 チャレンジ応援部門受賞3件 ○事業の成果 ・これまで知らなかった団体・人、そして多様な活動など、将来に残すべき財産を発見できたことが大きな成果。 ・活動を通じた社会貢献をしている団体等を評価できた点は大きい。 ・応募者によっては、活動に対する認識を改めるきっかけとなった。 ・多くの文化活動がある中で、お互いに知らない、情報共有できていなことを学ぶ機会となった。 ・さらに夢のある活動が誕生する可能性があると感じられた。	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ おだわらカルチャーアワードを初めて開催し、予想を上回る応募があった。文化団体・活動をあらためて認識するきっかけとなったと考えている。 ○ 文化活動をより広げていくための取組を、今後も進めていく。									
				小田原が文化活動をしやすいまちだと思ふ市民の割合	増				約4割	約6割													
施策2		デジタル文化の活用	デジタル技術を活用した、リアルとバーチャルが融合した公演が実施されるなど、より広く充実した文化活動が行われている。	文化部内で、文化資源をデジタルアーカイブ化した件数	維持	61,126点/年	1,901点/年	5,000点/年	5,000点/年	<table><tr><td></td><td>(点)</td></tr><tr><td>内 容</td><td>点 数</td></tr><tr><td>スキャンング</td><td>70</td></tr><tr><td>美術資料撮影</td><td>132</td></tr><tr><td>写真パネル</td><td>1,699</td></tr></table>		(点)	内 容	点 数	スキャンング	70	美術資料撮影	132	写真パネル	1,699	第17回ベストプラクティス賞優秀賞受賞 デジタルミュージアムにかかる講演等 ・6月25日 令和5年度博物館講演会 ・12月1日 令和5年度第2回教育事務所県社会教育主事研究協議会 ・12月14日 神奈川県博物館協会 第4回研修会 ・1月15日 大阪市博物館機構－博物館DXに関する研修－ ・1月28日 おだわら市民学校 デジタルミュージアムにかかる執筆 ・季刊誌『企業経営』165号 ・JIIIMA機関紙IM3.4月号 ベストプラクティス特集 ・小田原市郷土文化館研究報告第60号	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 前年度おだわらデジタルミュージアムがオープンし、前年に比べてデジタルアーカイブ化の件数は減少した。しかし賞の受賞や講演会・執筆など、デジタルミュージアムを広めるための取組が活発に行われ、文化や文化活動の充実につながっている。 ○ 文化資源のデジタルアーカイブ化は、引き続き着々と進めていく。
					(点)																		
内 容	点 数																						
スキャンング	70																						
美術資料撮影	132																						
写真パネル	1,699																						
デジタル技術を使用し地域に届けられた文化活動の件数	維持	23件/年	26件/年	25件/年	25件/年	三の丸ホール実施事業のうち、ライブや録画で配信を行った件数																	

			2030目指す姿	参考指標（定量的）	目標の方向	R4	R5	R6目標値	2030目標値	R5年度の数値について	R5年度勘案すべき内容	R5評価	R5文化政策課の所見
	施策3	発信力を高める	広く世界に対して、市の情報や文化活動が発信される体制が確立し、参加と交流が図られる。	国外に対し、文化に関するプロモーションの実施回数	維持	0回/年	1回/年	3回/年	3回/年	・アメリカサンフランシスコ市で企画展を開催。 事業者とともに小田原のものづくりや観光情報を発信した。	・観光協会によるインバウンド施策 高付加価値の体験型観光プランを作り、海外富裕層をターゲットに潜在旅客を開拓。 ・城主体験プラン 1日限定で小田原城主となり、時間外の天守閣を貸切に、城主証の授与式、懷石ディナー等体験。 ・リトリートプラン 江之浦測候所を貸切り雅楽演奏の鑑賞や禅体験。 ・美食満喫プラン 小田原漁港のセリを見学後、市内の古建築を時間外に貸切り、朝食を食べる体験。	順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 観光協会によるインバウンド施策の実施をはじめ、国外に対するプロモーションも実施でき、世界に向けた市の情報発信ができた。 ○ 観光協会の体験型観光プランは、外国人観光客のニーズにマッチし、文化的な交流にも繋がっている。
				SNS等を利用した文化情報発信の回数	増	76回/年	69回/年	36回/年	108回/年	メルマガ@おだわら文化 発信件数 50件 文化レポーターFacebook 発信件数 26件	メルマガ@おだわら文化 登録者数 1,595人（R5.8末現在）		
	施策4	持続可能なまちをつくる	文化活動の推進により、次代を担う子どもの豊かな心と小田原に対する誇りを育むとともに、「小田原ならではの」を感じられるまちづくりが進み、持続可能な社会に向かって推進している。	市民ホールでの子ども・青少年向け事業の実施回数（日数）	維持	33回/年	37回/年	50回/年	50回/年	・神奈川フィルハーモニー管弦楽団による音楽鑑賞会 ・三の丸ホール鑑賞事業 ・神奈川県西部子ども劇場協議会主催 演劇鑑賞 ・乳幼児・小学生向けのしい音楽会 in小田原		順調 やや順調 取組中 停滞 未実施	○ 三の丸ホールでは、子どもに向けた事業が一定数実施され、小学校での学習も着実に実施されている。 ○ おだわらカルチャーアワードの応募団体にも、次世代の育成を意識した活動が見受けられた。 ○ 今後も、継続した取り組みに努める。
				郷土の偉人（二宮尊徳）学習の実施	維持	25校/年	25校/年	25校/年	25校/年	尊徳記念館に出かけ学習 10校 尊徳記念館講師を招聘 10校 その他 5校	夏休みの課題の一つとして、市内小学校5・6年生を対象に、「二宮金次郎とわたし」をテーマにした作文募集 ⇒ 【R5】8校73名		
				SDGsパートナー登録者数	増	272者	355者	260者	総合計画				